

こんなセミナー  
やりました

# 大阪展セミナー『PERSPECTIVE2015』 ～プロの手法あれこれ～

昨年の『JARA2015 大阪展』で開催されたセミナーを、ざっくりまとめてご紹介いたします。  
(この回は録画配信をしていません)



「プロのレンダラーによる実践技法の解説」という内容で、4名のパネラーがそれぞれの特徴ある仕事の実例を解説しました。

## SketchUpを使ったプレゼン方法あれこれ

中村泰剛 (なかむら工房)

### ●自由度の高い SketchUp

SketchUp は本来モデリングソフトなのですが、使い方を工夫すると様々な媒体に対応したプレゼンツールとしても使えるので、今回は3通り方法を紹介した。



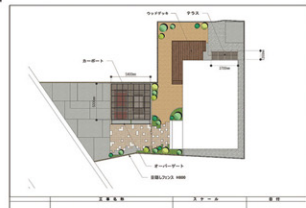
#### 1. ノート PC でのプレゼンにはプラグインソフト「リンクさん」

SketchUp データ内に様々なリンクを設定できるツール、リンクを設定することで SketchUp の画面から直接 WEB サイトを開いたり完成パースを開いたり出来る。



#### 2. 紙媒体でのプレゼンには「Layout」

SketchUp Pro にはプレゼンシートを作成できる「Layout」が付属しているので、紙媒体でのプレゼンには「Layout」を使用してパースや図面を配置してプリントをしている。



#### 3. タブレットでのプレゼンには「SketchUp Mobile Viewer」

タブレットに「SketchUp Mobile Viewer」をインストールすることで SketchUp データを直接タブレットで開いて閲覧することが出来る。ノート PC だと仰々しいのでサクッと軽く施主に見せたい場合などに重宝する。



### ●同じデータでも使い色々。

同じ SketchUp のデータを使用してもどの様な見せ方をするのか、場面に応じて様々な方法で対応出来るので、私のような個人事務所では、使っていて便利だし飽きが来ない。

## 超!!簡単に描ける手描きパース!

広畑直子 (ヒロデザイン事務所)

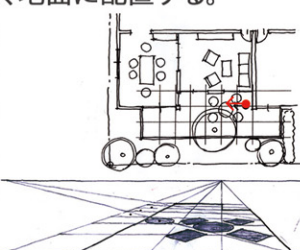
### ●グリッド作成によるエクステリアパース

手描きパースの描き方も様々ですが、今回はスケールも使わずグリッドを作成し、その中に配置し、寸法も測らずに高さをおさえていく描き方を紹介。手元をスクリーンに映し、解説しながら20分で描きました。



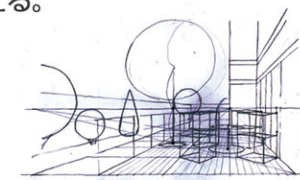
#### 1. 平面図にグリッドをいれて、地面に配置する。

今回は 1,000mm のグリッドを平面図に置いて、「←」方向から見たパースを作成する。まずは目線の高さ (HL) の水平線を引き、グリッド通り、テーブルセット、樹木、デッキ、建物の位置を、地面に配置する。



#### 2. 大まかな高さのあたりをとる。

目線の高さ (HL) は GL+1,000mm に設定したので、HL までの高さから、それぞれの高さを割り出し、およその高さをおさえる。



#### 3. 仕上げの描きこみと、陰影をつけて完成!

テーブルセットや樹木も、それらしく見えるように描きこみ、最後に陰影をつけて、立体感を強調できれば完成。



学生からベテラン設計者まで参加者はいろいろ。協賛企業様による最新技法のご紹介や、パネラー全員でのトークディスカッションなど、盛りだくさんの内容でした。イベントに関するアンケート・感想は今後の活動に活かしたいと思います。



セミナー後は隣の会場にて懇親会立食パーティ！来場者・協賛・会員が、情報交換やら名刺交換やら雑談やら。関東など遠方からの参加もあり、充実した時間となりました。JARA2016 も各種イベントをお楽しみに。



## 簡易CGによる実践対応と実例

根来祐史 (NEGOROレンダリング)



### ●10分の実演ショー

『3D マイホームデザイナー PRO8』にて住宅の外観・内観パースを間取り図から作成する最短手法を、軽快な BGM に乗せて、完成までご覧いただきました。



### ●レンダリング出力の間 実例紹介

後半10分は、80点あまりの作例を通して、実践的な表現手法のあれこれを解説しました。



## ハイブリッドパース具体例

上野真理 (株式会社 アルモ設計)

### ●制作環境について

「手描き+CG」のハイブリッドパースの多くは「チーム制作」。私の担当する2D作業は液晶ペンタブ+photoshopで行っています。

CG・ムービー等「表現にこだわりのある」グループにいるため「一人では難しい事がチーム制作することで可能」「手描きスキルを活かせる」つまりハイブリッドしやすい環境と言えます。



### ●途中の工程と添景へのこだわり

レタッチによりどう変わっていったかを見ていただきました。「こだわりポイント」により、手描きをMIXした意味・効果が伝われば…。



### ●まとめとデッサン力の話

- ① 総合的な制作能力を身につけよう。
- ② 「高品質」も「効率」も。条件 × 腕 = 最適な提案!
- ③ 人が真似できない腕を持とう。

— そんな綺麗なまとめで終わらず、以下(毒)を付け加えました。

「CGと手描きのハイブリッド」制作をしたいのなら、デッサンで受験できる位の「手描きの腕」を磨いてから!  
「3DCG」だってデッサン力の無い下手なレタッチならしないほうがマシ。  
つまりビジュアルライゼーションにはデッサン力が必要ということ!  
「無理だ!」と思ったら、できる人(プロ)にお任せください。